	もりした　あおい
氏　　名	**森　下　あおい**
学位(専攻分野)	博　士（学術）
学位記番号	博甲第　４３４　号
学位授与の日付	平成 18 年 3 月 24 日
学位授与の要件	学位規程第 3 条第 3 項該当
研究科・専攻	工芸科学研究科　先端ファイブロ科学専攻
学位論文題目	**浮世絵における女性の体形と小袖の時代推移に関する定量的研究**
	(主査)
審査委員	教授　黒川隆夫
	教授　西村太良
	教授　並木誠士

論文内容の要旨

本論文では，ファッションデザインの立場から，小袖を着用した立位の女性の容姿を描いた江戸時代から明治にかけての浮世絵を主な対象として，描かれた女性の体形を定量的に把握するとともに，女性の体形とその着衣である小袖の形態が絵画上でどのように変遷してきたかを明らかにしている．またこれまで定性的に表現されてきた浮世絵上の女性の姿態に関するいくつかの記述を定量的に確認している．さらに同じ手法を写真にも適用して，人体に関する定量的資料の整っていない明治期の女性の体形についても論じた．

本論文は７章よりなる．

第１章では研究の背景と目的を述べている．

第２章では，絵画の人物表現から体形を記述するためのサイズデータを求める手法を提案している．これは浮世絵の描画法，小袖の着衣形態に着目し，実際のポーズと標準立位姿勢から導出したサイズの比率を絵画に適用して，体形記述に必要でしかも人間工学的に重要な 16 項目のサイズを求めるものである．

第 3 章は，第２章で得た手法を江戸時代初期から明治に至るまでの浮世絵に適用して，描かれた女性の体形の時代推移について論じている．ここでの体形とは，多数項目のサイズより得られる人体の概形あるいはプロポーションを意味する．対象とした 300 年間を 50 年ごとに区切り，各時期ごとに体形特徴が現れることを示すとともに，浮世絵全体としては肩峰幅やヒップ幅が狭く，ウエストのくびれが少ないずん胴型で，しかも胸部からウエストまでが長い体形に描かれていることを明らかにしている．

第 4 章では，第３章の体形データを浮世絵の作者別に分析し，作者ごとの特徴を述べている．また同時期の作者間では異なる時期の作者間よりも類似性が大きいことを主成分分析の結果に基づいて明らかにし，同時期の浮世絵には比較的共通した特徴が認められることを指摘している．

第 5 章では，第２章の手法を明治期の写真にも適用して，人体に関する定量的資料の整っていない時期の体形データを導出し，同時期の性質の異なる資料および他の時代の資料と比較して体形の特徴と推移について論じている．

第 6 章では，浮世絵の女性像が着用している小袖の着衣形態について７項目の定量化を試み，帯幅の時代変化が大きく，それが各時期の特徴ある小袖着衣プロポーションを作りだしているこ

と,さらに７項目の値が各時期に着用された実際の小袖のサイズ，特に帯幅，袖口，袖丈をよく反映していることを示している．

第７章は結論である．

論文審査の結果の要旨

本論文は，ファッションデザインの観点から，描かれた人物像の体形と着衣の相互関係とその変遷を分析したものである．分析を定量的に行うために，実際の人物によるポーズと標準立位姿勢の間のサイズ比を利用して，人物像から各種のサイズを推定する方法を提案した．そして，長期にわたって一定の描法が維持されてきた浮世絵上の，小袖を着用した女性像にこの手法を適用して，16 項目のサイズを抽出し，描かれた人物を体形という側面から定量的に分析できることを示した．特に，実際に江戸期から明治期に至る 300 年間の浮世絵を分析し，各時期と作者にサイズ表現上の特徴が認められることを明らかにした．同じ手法を明治期の写真資料にも適用し，人体の集団計測データが揃っていない時期について定量的なデータを補足できることを示した．最後に，小袖の着衣形態についても定量化を試み，それが各時代に着用された小袖のサイズと対応するところが多いこと，体形と一定の相関関係をもって推移したことを示した．

本論文で提案された方法と分析結果はいずれも新しいもので，学術的価値が非常に大きい．特に絵画や写真の人物像について従来とは異なる分析が可能なことを示した点，またファッションデザインや被服人間工学の分野に人体と衣服に関して欠けていた定量的データを導入できる可能性を示した点は高く評価できる．

本論文は査読制度をもつ学会誌等に掲載予定の下記３編の学術論文を元に作成されたものである．申請者はいずれの論文においても筆頭著者となっている．

1. 森下あおい，黒川隆夫 : 浮世絵に描かれた小袖着衣形態の定量的考察，芸術工学会誌，No. 40 (2006 年 3 月) (印刷中)
2. Morishita, A. and Kurokawa, T.: Female body depicted in Ukiyo-e in the Edo Period, *Bulletin of Japanese Society for the Science of Design* (2006 印刷中)
3. 森下あおい，黒川隆夫 : 浮世絵に描かれた女性の人体形態の定量的考察，芸術工学会誌 （条件付き採録)

また本論文に関連する参考論文として、下記のものの他２編がある．

1. 森下あおい，黒川隆夫：浮世絵を通してみた江戸時代の人体表現について，第９回公開シンポジウム人文科学とデータベース論文集，pp. 51-60 (2003)
2. 森下あおい，黒川隆夫：浮世絵に描かれた江戸期女性の人体形状の定量的考察，第９回ノンバーバルインタフェース研究会論文集，pp. 1-8 (2005)
3. 黒川隆夫，森下あおい：写真に基づく明治期女性体形の定量化と他の時代の体形との比較，ヒューマンインタフェース学会第 10 回ノンバーバルインタフェース研究会論文集（2006 印刷中)